

アルジェリア政治・経済月例報告
(2015年6月)

平成27年7月
在アルジェリア日本国大使館

1. 内政

● ウーヤヒヤ大統領府官房長の RND 党首代行就任

10日及び11日、連立与党RND（民主国民連合）の第4回全国評議会総会（党大会）がゼラルダ（アルジェ市西方の郊外）にて開催された。RND全国評議会のメンバー約300人が出席し、RND所属の閣僚であるブシュアレブ産業・鉱業大臣やメバルキ職業訓練・専門教育大臣も本会合に出席した。今回の会合では、先月辞任したベンサラ前RND党首（現国民評議会議長）の後任としてウーヤヒヤ国務大臣兼大統領府官房長がRND党首代行（2016年5月に開催予定の党大会で党首が選出される見込み）に投票により選出された。「ウ」は、過去にも、1999年から2013年1月3日までRND党首職を務めていた。

● ベンフリス元首相の新政党設立

13日、アルジェで「自由の先駆者達」党の結成のための会合が開催され、ベンフリス元首相が党首に選出された。同会後には、アブドサラーム・ベライド、ミクダード・サイフィ、アハマド・ビンビトールの各元首相、野党連合「自由と民主的移行のための連携」や「変革勢力の極」のメンバー、元軍人党が参加、事務局長にはアハマド・アッターフ元外相が選ばれた。同党には、390名から成る中央委員会と、21-31名の政治局が設置されている。

2. 外交

● 第3回リビア政治対話

3日及び4日、アルジェにて、リビア政治指導者らを集めた第三回リビア政治対話が国連の主催のもと、また、メサヘル・マグレブ・AU・アラブ連盟大臣や隣国・国際社会からの出席を得て、非公開で開催された。3日の開会式において、レオン国連特使は、本会合は「非常に重要 (cruciel)」であると形容し、対立しているあらゆる政党に対して、対立関係に終止符を打ち、テロリズムに対して一丸となって戦うよう呼びかけた。本会合では、特にリビア人の総意に基づく統一政府の樹立を通じた、リビアの平和の回復及び和解の呼びかけを含む宣言が採択された。

● マリ包括和平・CMA との再協議

先月26日より、アルジェで、5月15日のバマコでの和平合意に署名しなかったアザワド運動連合（CMA）とマリ政府間の協議が拡大調停団参加の下で実施された結果、5日、マリ和平合意に関する実施取極めについて、交渉がまとまった文書の署名式が行われた。右署名式には、ジョップ・マリ外相、プラットフォーム代表（穏健派）、CMA 代表、ラマムラ外相及び拡大調停団（AU、国連、EU、IOC、ブルキナファソ、モーリタニア、ニジェール、チャド、米、仏）が参加。CMA が6月20日までに和平合意に署名することになった（その後実際に20日に署名）。

● オランダ仏大統領の来訪

15日、オランダ仏大統領が当地を訪問した。「オ」大統領は当地滞在中ブーテフリカ大統領及びセラル首相と会談したほか、アルジェリア戦争殉教者記念塔を訪問して献花及び一分間の黙禱を行った。「オ」大統領の当地公式訪問は2012年12月に続き二度目。「オ」大統領は、両国関係が「特別（exceptionnelle）」なものであるとし、既に進出している仏の大手企業であるルノー、サノフィ、アルストムの他、近くプジョーも進出することになると述べた。また、「ブ」大統領の健康問題に関し、「大統領は聡明であるとの印象を受けた。私が言えることは、我々は約二時間にわたり質の高い議論を行ったことである」と述べたことが注目された。

3. 治安

● 米軍空爆による MBM 死亡説

13日から14日にかけての夜間、米軍はリビアのベンガジ西160キロのアジダビヤに在る農場に対して空爆を行い、リビア暫定政府は、15日、イナメナス・ガス施設襲撃など多くのテロの首謀者であるムフタール・ベルムフタール（MBM）が米軍の無人飛行機により殺害されたと発表した。他方で、米国防省スポークスマンは、MBMが攻撃の対象であったことは認めたが、同人の死亡については肯定も否定もしなかった。その後、リビアの「アンサール・シャリーア」（16日）、AQIM、ムラービトウーン（共に19日）が同人の死亡を否定する声明を発表しており、同人の生死は不明のまま。

● チュニジアでの外国人観光客へのテロを受けた東部国境警備

アルジェリアは、ISILのメンバーによる犯行と目されているテロ、特に隣国チュニジアのスースで発生した事件（26日）を受けて、東部国境の治安

部隊のプレゼンスを強化した。チュニジア国境（全長965km）で展開している兵士の数は少なくとも2万5,000人と算定される。両国の国境地帯に大規模なテロリスト潜伏地の存在が確認されていることもあり、これら兵士の任務は、チュニジアからアルジェリア、アルジェリアからチュニジアの両方向のテロリスト移動を阻止することと考えられる。アルジェリアとチュニジアは共同でAQIM・ISIL対策を進めており、今回のアルジェリア治安部隊の国境でのプレゼンス強化は、アルジェリアが緊急に講じた措置である。

4. 経済

● 世界銀行による「世界経済見通し」報告書

11日、世界銀行は「世界経済見通し」を発表した。同報告書によると、アルジェリアの経済成長率は、2016年が3.9%（本年1月の報告書では3.5%）、2017年が4%（本年1月の報告書では3.5%）と上方修正された。

● 2015年補正予算案

16日、当地独立系エクスペリション紙が消息筋から入手した情報によると、現在審議中の2015年補正予算案は、継続する原油価格の下落の影響から、緊縮財政案及び増税案が盛り込まれているとの由。同法案には、不動産譲渡税の増税、自動車税の増税、ガソリン・カードの導入（当国のガソリンには助成金が付与されているが、同カードの導入により、助成金付きのガソリンの年間利用限度額が規定され、限度額を超えた場合は正規の料金を支払うことになる）等が盛り込まれている。

● 2015年1月-5月の貿易統計

23日、アルジェリア関税局・国家統計情報センター（Cniss）は、2015年1月-5月の貿易統計を発表した。同統計によると、貿易収支は63億8,000万ドルの赤字（前年同期は34億4,000万ドルの黒字）、輸出額は159億4,000万ドル（前年同期は281億1,000万ドル、対前年同期比43.67%減）、輸入額は223億3,000万ドル（前年同期が248億7,000万ドル、対前年同期比10.22%減）。2015年5月の主要輸出相手国は、スペイン（6億4,300万ドル）、オランダ（4億9,700万ドル）、イタリア（4億1,900万ドル）、フランス（3億9,900万ドル）、イギリス（3億8,400万ドル）。主要輸入相手国は、中国（7億8,500万ドル）、フランス（4億1,000万ドル）、イタリア（4億300万ドル）、スペイン（3億4,000万ドル）、ドイツ（3億3,700万ドル）。

5. 我が国との関係

● 第3回日・アルジェリア政策協議の開催

11日、東京に於いて第3回日・アルジェリア政策協議が行われた。日本側は、上村中東アフリカ局長、アルジェリア側はゲナッド外務省アジア大洋州局長がヘッドを務め、マグレブ・サヘル地域等の国際情勢、両国関係やマルチの協力関係等について協議を行った。

● USTOがシリカ還元炉の試運転に成功

11日、オラン科学技術大学(USTO)と複数の日本の大学及びJICA/JSTが共同で行っている「サハラ・ソーラー・ブリーダー(SSB)プロジェクト」において、同プロジェクトのリーダーであるスタンブーリUSTO教授は、日本から届いたシリカ還元炉の試運転を行い、高純度のシリコンを精製することに成功したと発表した。

<アルジェリア要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
6月2日	スーダン	ウルドゥ・ヘリファ国民 議会議長	バシール大統領就 任式
6月2日	ベルギー	ラマムラ外務大臣	第9回アルジェリ ア・EUパートナーシ ップ会合
6月7日	エジプト	メサヘル・マグレブ・ AU・アラブ連盟大臣	アルジェリア・イタ リア・エジプト三ヶ 国会議に出席(リビ ア問題)
6月9日	サウジアラビ ア	メサヘル・マグレブ・ AU・アラブ連盟大臣	ムハンマド皇太子 と会談等
6月13日	南アフリカ	セラル首相	第25回AU総会
6月20日	マリ	ラマムラ外務大臣	マリ和平協議に出 席
6月23日	南アフリカ	メサヘル・マグレブ・ AU・アラブ連盟大臣	第33回NEPAD首脳 会議

<外国要人のアルジェリア来訪>

日付	国	氏名・肩書き	目的
6月1日	ベトナム	グエン・タン・ズン首相	ブーテフリカ大統領、ベンサラ上院議長、セラル首相等と会談
6月6日	ウガンダ	クテサ国連総会議長	ブーテフリカ大統領、セラル首相、ラマムラ外務大臣と会談等
6月7日	赤道ギニア	ムバソゴ大統領	ブーテフリカ大統領、セラル首相、ベンサラ上院議長と会談等
6月7日	アメリカ	ウィリアムス・アメリカ アフリカ軍（AFRICOM）陸軍司令官	ブスティラ憲兵隊長と会談等
6月15日	フランス	オランド大統領	ブーテフリカ大統領、セラル首相と会談等
6月23日	チュニジア	ジナウィ大統領特使	ブーテフリカ大統領と会談等
6月29日	イラン	チチャン・エネルギー大臣	ブーテフリカ大統領、セラル首相と会談等

(了)